

青少年育成ひろしま情報誌

はぐくむ

2015.2 vol.8

はぐくもう。子どもも、私も。



●平成26年度青少年育成県民運動推進大会
ソプラノとテノールの世界〜ローマへの誘い〜
ソプラノ歌手・森美津子 テノール歌手・ジヨアッキノ・シット ヒアノ伴奏・上杉智穂

●県民運動「あいさつ・声かけ」

●いきいき地域活動紹介

●市町民会議ネットワーク研究・交流会

●青少年育成力レッジ「総合講座」の紹介

夢の実現に向けて ～実行委員会～



夢配達人プロジェクト推進事業

～子どもたちの夢をみんなの協力で実現させました!～

「夢配達人プロジェクト」で“地域の人達と一緒に映画を作りたい”を実現した東広島市立高美が丘小学校の児童たち。



公益社団法人 青少年育成広島県民会議

青少年育成の基本指針

(昭和52年6月1日青少年育成広島県民会議制定)

前 文

「青少年は日本の希望である」という言葉は、われわれの心を支えている標語である。ところが、青少年の非行が問題になると、明確な実施効果の見定めもつかぬままに、条例や法律の制定に期待の高まるのが実状である。しかし、青少年の非行が大人の生活の反映であるとするれば、青少年の健全育成は、大人の反省なしには実現しないであろう。大人がかつて青少年であつたように、青少年はやがて大人になるのである。人間の生涯は、多様な価値観の個性的選択による自己教育の連続であるといえよう。

ここに制定された青少年育成の基本指針は、ただ青少年育成のあり方を抽象的に示したものに過ぎない。それは、各地域の実状に応じて具体化されることが期待される。総括的にいえば、資源の乏しさを克服して、相当高い生活水準に到達している現代日本において、青少年は将来どのような展望をもつて進んだらよいか、これが最大の課題である。

われわれは、青少年の前途に幸福の「青い鳥」の夢を託したい。

青少年育成の基本指針

(個人) 一 個性の独自性に対する自覚にもとづき、その価値可能性を錬磨し、生涯教育の基礎をつくる。

(社会) 一 家庭の愛情にはぐくまれ、社会生活において、友情と連帯の意識を養つ。

(自然) 一 国土の自然を愛護するとともに、地域社会の文化を尊重し、環境の教育的整備につとめる。

(世界) 一 諸民族の生活と文化を理解し、平和と親善の心をこめて、国際交流に寄与する。

(総括) 一 日々の生活のなかに、生きがいを求めてわが道を行き、一隅を照らす光となる。



はぐくむ

2015.2
vol.8

Contents

02 平成26年度青少年育成県民運動推進大会 表彰・開会



04 ソプラノとテノールの世界 ～ローマへの誘い～

ソプラノ歌手 森美津子さん テノール歌手 ジョアッキーノ・ジットさん ピアノ伴奏 上杉智穂さん



08 【私たちの活動発表】 「地域の人達と一緒に映画を作りたい」 東広島市立高美が丘小学校



12 県民運動「あいさつ・声かけ」 ～あいさつ・声かけ運動の広がりを目指して～

14 いきいき地域活動紹介 北広島町青少年育成推進協議会 青少年育成廿日市市民会議 青少年育成三次市市民会議 青少年育成府中市市民会議 呉の子どもを守る会議 青少年育成坂町市民会議



20 夢配達人プロジェクト推進事業 ～子どもたちの夢をみんなの協力で実現させました!～



24 市町民会議ネットワーク研究・交流会 県民活動をより活発にしていきたいために

26 青少年育成カレッジ「総合講座」の紹介 広島修道大学 人文学部 教授 西野泰代さん 県立広島大学 総合教育センター 准教授 学生相談室長 金山健一さん



はぐくむ vol.8 発行月 平成 27年 2月

発行人／(公社)青少年育成広島県民会議

企画・編集／(公社)青少年育成広島県民会議

〒730・8511 広島市中区基町 10・52 広島県環境県民局県民活動課内

TEL:082・513・2742 FAX:082・511・2173

URL: <http://www.hiro-payd.or.jp>

編集協力／イニシャルコンテンツ



平成26年度 青少年育成県民運動推進大会

平成26年11月1日(土)、
広島市中区大手町の広島
県民文化センターで、青
少年育成県民運動推進大
会を開催しました。

平成26年度 青少年育成県民運動推進大会

主 催 : 公益社団法人 青少年育成広島県民会議

ソプラノとテノールの世界
～ローマへの誘い～
ソプラノ歌手 森美津子氏
テノール歌手 ジョアッキーノ・ジット氏
ピアノ伴奏 上杉智穂氏

大会次第

【開 会】

- ◎開会あいさつ
(公社)青少年育成広島県民会議会長
- ◎来賓祝辞
広島県知事、広島県議会議長
- ◎表彰
青少年育成功労者等県知事表彰
「家庭の日」に関する作品の県知事表彰

【わたしたちの活動発表】

夢配達人プロジェクト推進事業から
発表:東広島市立高美が丘小学校
「地域の人たちと一緒に映画を作りたい」

【ソプラノとテノールの世界】

～ローマへの誘い～
ソプラノ歌手 森美津子氏
テノール歌手 ジョアッキーノ・ジット氏
ピアノ伴奏 上杉智穂氏

【閉 会】



式典では、主催者を代表して、
公益社団法人青少年育成広島県
民会議 上田宗岡会長が開会の
あいさつをしました。



大会の終わりに当たり、(公社)青少年育成広島県民会議の山内吉治副会長があいさつ。全日程を無事に終了し、青少年育成県民運動推進大会を閉会しました。

開会のあいさつの後、広島県知事表彰を行いました。永年にわたり青少年の健全育成に力を尽くした方々や団体、また模範的な活動を行っている団体、個人を表彰しました。

次に、「家庭の日」をテーマに、県内の小・中学生を対象に作文・図画を募集していますが、今年度は小学校58校、中学校56校から、作文と図画を合わせて1,783点の応募がありました。その中で特選に選ばれた4名が県知事賞を受賞しました。

平成26年度青少年健全育成功労者等知事表彰受賞者名簿

(50音順、敬称略)

(青少年健全育成功労者22名)

今田忠男(三次市) 大倉信治(広島市) 岡崎常雄(広島市) 岡田弘(広島市) 川本妙子(広島市) 小西正明(広島市) 杉原孝治(世羅町) 角田洋子(広島市) 妹尾慶子(尾道市) 田原忠之助(広島市) 茶木富夫(東広島市) 塚迫たか子(廿日市市) 土岡孝子(呉市) 寺岡信恵(広島市) 沼村光明(広島市) 濱岡邦治(尾道市) 富士枝勇雄(廿日市市) 前田頼雄(廿日市市) 森下偵造(尾道市) 森本忠司(広島市) 山本秀男(安芸高田市) 米田速夫(三次市)

(育成功労団体4団体)

牛田剣道スポーツ少年団(広島市)
坂町体育協会剣道部(坂町)

坂町空手道スポーツ少年団(坂町)
広島南警察署管内少年補導協助力連絡協議会(広島市)

(模範青少年1名)

矢野結真(広島市)

(模範活動団体2団体)

子ども和太鼓クラブ「海田鼓童子」(海田町)
青少年夢プラン実行委員会(廿日市市)



平成26年度「家庭の日」に関する作品の知事賞受賞者名簿

(作文の部)

特選 實下 桃花 呉市立阿賀小学校1年
特選 山下 智美 東広島市立入野小学校6年
特選 桐野 侑句 呉市立片山中学校2年

(図画の部)

特選 安間 伊吹 広島市立飯室小学校2年



ソプラノとテノールの世界

〜ローマへの誘い〜

平成26年度の青少年育成県民運動推進大会では、広島県出身でイタリアを中心にヨーロッパの歌劇場で活躍するソプラノ歌手・森美津子さんを中心に、オペラ界の重鎮として知られるテノール歌手ジョアッキーノ・ジットさん、ピアノ伴奏に広島市在住のピアノリスト・上杉智穂さんを迎え、ドラマチックなイタリア音楽の世界を堪能しました。

重厚な楽曲から軽快な民謡まで
美しい歌声でオペラの世界を堪能

森 こんにちは。

会場 こんにちは〜！

森 (通常のコンサートでは) 挨拶は返ってこないで、皆さんからの返事に感動しました。今日はソプラノの私、テノールのジットさん、ピアノ伴奏の上杉さんと3人でお送りします。

最初は、ロッシーニ作曲の「セビリアの理髪師」です。ロッシーニはお気に入りの歌手にメゾソプラノ歌手が多かったことから、彼の作品の主役は大抵、メゾソプラノで書かれています。(セビリアの理髪師は) 彼の特徴である細かな部分が楽しめる曲です。メゾピアノ用に書かれたオリジナル楽譜でソプラノ風に歌います。

「セビリアの理髪師」披露

森 こういう楽曲で始めるのも勇気がいるんです。頑張りました！

森 ジットさんにチレア作曲「アルルの女」の中から、「フェデリーコのアリア」を歌っていただきます。その後、「アドリアーナ」というオペラから1曲。この「アドリアーナのアリア」という曲が今、私の中で流行っているんです。ぜひ皆さんにご紹介したいなと思います。

ジットさんが「アルルの女」を歌うと言った時、「やったー」と思って私もこの曲を歌うことに決めました。オペラ1本で上演されることはめったにない曲なんです。でも皆さんもよくご存じのブッチーニが引用して使いたくなるような美しいメロデーです。それでは、ジットさんをお迎えします。

森 ジットさん、広島は好きですか。

ジット イタリア語であいさつ。オコノミ

ソプラノ 森 美津子
テノール ジョアッキーノ・ジット
ピアノ 上杉 智穂

ヤキ(お好み焼き)という言葉が出た瞬間に会場から拍手)

森 イタリア語が分かる方がたくさんいるようです(笑)。

ジット (森さん訳)

日本はもちろん、広島にも何度か来ていて、広島の人はずいぶん、街もきれいだし、お好み焼きも大好きなんだ。森 彼がお好み焼きを好きなことを知っています。でも今回はまだ食べに行っていないですね。

ジット この後で食べに行きたいと思います。



森 それでは彼のステキな歌声で「アルルの女」をお楽しみください。

「アルルの女」披露



●ソプラノ歌手

森 美津子

イタリア国立レスピーギ音楽院を栄誉賞・最高点・首席卒業。同音楽院助手。モーツアルテウム音楽院夏季ディプロマコース修了。ジュゼッペ・ディ・ステファノ国際オペラコンクール優勝（EU以外で初）。イタリアラーツィオ州より「ルチア」「スタバト・マーテル」の演奏で奨励賞。1万人規模のイタリアタオルミーナ野外歌劇場とメキシコアカデミアホールをはじめ、世界各国の劇場で客演。イタリア・チレーア歌劇場オペラ「トゥーランドット」（リユー）ではイタリアを代表するカソッラ、マルティヌッチらと共演し、同等レベルとイタリアの各紙で絶賛される。またイタリアの創作オペラの主役に抜擢。近年ではヨーロッパオペラツアーで20か所の歌劇場で蝶々夫人・トロバトーレ・椿姫のオペラとガラコンサートに主演。ローマ、ニューヨーク、ザルツブルグで研鑽。



上杉 智穂

中国短期大学音楽学科器楽専攻卒業。音楽科定期演奏会、中・四国新人演奏会等出演。ジョイントリサイタル等各種演奏会開催。近年はアンサンブルピアニストとして声楽・器楽のリサイタル伴奏をはじめ、オペラの稽古、コンクール・オーディション、音楽祭出演や学校公演、被災地訪問公演等、幅広く活動。現在、中国二期会ピアニスト、ひろしまオペラルネッサンス関係ピアニスト、ふくやま日本歌曲塾会員。広島市在住。

●テノール歌手 ジョアッキーノ・ジット

オペラ「ラ・ボエーム」にてオペラデビュー以来、イタリアの主要な劇場でのオペラ・コンサートで活躍するほか、アメリカ・ドイツ・トルコ・フランス・オランダ・ベルギーなどのイタリアの劇場引越し公演に主演。日本には2003年に広島でのコンサートの出演以来、東京・新潟・倉敷の各地でゲスト出演。国際オペラコンクール審査委員長や国際声楽コンクール審査員をイタリア・スペイン・ドイツ・ポーランドで務め、世界各国でマスタークラスを開催。新人発掘と後進の指導、オペラツアーなどを企画して演奏者のデビューにも携わる。イタリアでも数少ない30年近いキャリアを持つオペラ総監督。

●ピアノ伴奏

上杉 智穂

中国短期大学音楽学科器楽専攻卒業。音楽科定期演奏会、中・四国新人演奏会等出演。ジョイントリサイタル等各種演奏会開催。近年はアンサンブルピアニストとして声楽・器楽のリサイタル伴奏をはじめ、オペラの稽古、コンクール・オーディション、音楽祭出演や学校公演、被災地訪問公演等、幅広く活動。現在、中国二期会ピアニスト、ひろしまオペラルネッサンス関係ピアニスト、ふくやま日本歌曲塾会員。広島市在住。

森 ジットさんはイタリアから来られました。（会場の皆さん） イタリアと日本とは、時差がどのくらいかご存じですか。8時間差です。彼にとって今は朝6時です。おじいさん頑張ってます（笑）。

（彼は）いつも若々しいんです。私は90歳くらいの方に習っていたのですが、実際に歌って聴かせてくれるんです。血の中に違うエキスをが入っているかもしれないですね。（ジットさんは）声の美しさもそうですが、パワーがすごいなと思います。私も頑張ろうと思います。

それでは、「アドリアーナのアリア」を聴いてください。

「アドリアーナのアリア」披露

「広島は人がステキ、街がキレイ。

宮島とお好み焼きが好きなんだ」ジット氏



話題の「トゥーランドット」から 声高らかに「広島の人のために！」



オペラ「トゥーランドット」とは

舞台は古代中国。トゥーランドット姫は求婚者に三つの謎を出し、解けないと首をはねる残忍な心の持ち主。しかし勇者カラフ王子と出会って愛を知り、2人は結ばれる。

森 次に送りする曲は、プッチーニ作曲のオペラ「トゥーランドット」です。広島から熱いラブコールで「誰も寝てはならぬ Nessun Dorma (ネッスン・ドルマ)」を。冬季トリノオリンピック女子フィギュアスケートで、金メダルを獲得した荒川静香選手がフリーの演技で使用し、大きな注目を集めました。でも実は彼のレパートリーではないんです。

ジツト 最初で最後にするけど、仕方ない、広島の人頼みだから歌うよ！

森 初挑戦です。皆さん、温かい気持ちで聞いてください。「ネッスン・ドルマ」です。

「ネッスン・ドルマ」披露

森 レパートリーではないと言われると困ってしまうほどの、素晴らしい歌声でした。ジツトさんのデビューは「ラ・ボエーム」ですが、オッテルロ、マクベス、トスカなど（を得意とする）、重くリリックの効いた情熱的な歌声です。イタリアでは「ヴォーチェ・カルトン」と言って、彼のように常に温まっているような声で歌うというのが好まれています。

それでは、私も頑張つてトゥーランドットの中から「リユーのアリア」を歌わせていただきます。

森 物語の（名前が）トゥーランドットですから、トゥーランドットがいい人ではないかならないんです。でもプッチーニは

この曲を書いているうちに、リユーがいい人になってしまったんですね。プッチーニは、トゥーランドットと先ほど言ったカラフを悪人にして、どうすればオペラがハッピーエンドになるかを悩んで、最後まで書ききることができませんでした。このアリアは、彼が最後に筆をおいた作品です。

現在、日本で上演されるときには、プッチーニの弟子が最後まで書ききっていますので、その状態で上演されます。プッチーニが書き残した台本もあります。聴いてください。

「リユーのアリア」披露

森 ありがとうございます。わたしは明日、この曲を歌いにイタリアに行きます。皆さんの温かい拍手を思いながら頑張ります。





軽快な民謡から喜劇も 「オペラをもっと気軽に楽しんで」

森 少し重い曲ばかりでした。小学生のお友達もいますので、教科書に紹介されるイタリア民謡と、そして会場の皆さんの盛り上がりによっては、彼ももっと歌うかもしれません。とりあえず、彼に2曲歌ってもらいます。「帰れソレントへ」と「フニクリ・フニクラ」。

「帰れソレントへ」「フニクリ・フニクラ」披露

森 イタリアの男性が歌うナポリ民謡には明るく楽しい曲が多いのですが、女性が歌うものは全く違つ（強さを表現したものが多）いのです。今から歌うオペラは、まさしく強いイタリアの女性をイメージした代表的な作品です。

オペラは敷居が高いと言つ方もいらっしゃるかもしれませんが、敷居は地下に埋

めておきますので、今度からいらしてください。オペラ歌手も普通の人がやっているんです。

マスカーニ作曲のオペラ「カヴァレリア・ルスティカーナ」という曲です。マスカーニが名声を受けた曲です。歌手に与えられるものも大きく、オーケストラになる際にもとても熱くなったということです。これだけを歌っている歌手もいるほどです。私が歌う曲は魂が感じられる歌。私も低い音が割と出ますので、このような曲が好きで歌わせていただいています。オペラ気分



私の歌からデュエットに続きます。その内容は私の主人が浮気をします。私が突き止めている、そういう単純で分かりやすいストーリーです。そして、最初の aria は私が彼のお母さんに何があつたかを話している aria です。楽しみにしてください。

「カヴァレリア・ルスティカーナ」披露

森 ありがとございました。（拍手が終わらず、もう一度）ありがとございました。楽しい時間はあつという間に過ぎてしまいました。二重唱を歌いながら（血管が）切れるかと思いました。頑張りました。この頭を割つてやるという気持ちで歌いました。いかがでしたでしょうか。（拍手）。

広島出身ですが、なかなか広島で歌うことがありません。このような楽しい時間を過ごさせてくださった皆さんに心から感謝します。

広島県の方から「ジットさんと呼んでくれ」とラブコールをいただきまして。遠くから来てくれたジットさんにも大きな拍

手を！

ジット ぼくはなんでもするよ、ここにいるんだから。

森 さきほどの二重唱で終わると子供さんのためにもよくないので、レハールの「メリー・ウィドウ」というオペレッタを歌います。オペレッタはイタリアでは歌いませんし、ど真面目なオペラを歌います。彼の声質からしてもオペレッタを歌いませぬ。**ジット** オペレッタを歌つのは日本だけだよ。

「メリー・ウィドウ」披露

森 皆さん、これでおなかいっぱいですか。**ジット** オースレミオがマンマをつたつか

い？
森 それではナポリ民謡「オースレミオ」。

「オースレミオ」披露

森 ピアノの上杉さん、ジットさん、森美津子でお送りしました。また、お会いできるのを楽しみにしています。ありがとうございました。



私たちの活動発表

夢配達人プロジェクト

東広島市立高美が丘小学校



「地域の人達と一緒に 映画を作りたい」

「夢配達人プロジェクト推進事業」に参加した東広島市立高美が丘小学校の子どもたちが平成25年度、「地域の人達と一緒に映画を作りたい」という夢を実現しました。青少年育成県民運動推進大会の当日、同小学校6年生の竹中亚花里さん、永見優衣さん、原響子さんの3人が、夢実現までの活動を報告、作品を披露。その様子をレポートします。

94人の夢が実現した上映会 協力してくれた方々に感謝

平成26年2月9日、東広島市立高美が丘小学校5年生94名の夢を乗せた映画が、ついに上映の時を迎えました。

前日に降った雪でとても寒い日にもかかわらず、上映会の会場となった高美が丘小学校体育館には島田角栄監督やスタッフのみなさん、映画に出演してくださった方をはじめ、たくさんの方々が集合してくださいました。

そして「夢配達人プロジェクト」が実現した瞬間、体育館には大きな歓声が響き渡りました。あの時の感動

は今でも忘れられません。

この夢の始まりは、私たち3人が4年生の時のことです。夢配達人プロジェクトを知り、「映画監督さんを手伝ってもらい、地域の人と映画を作ってみたい」という夢を応募しました。その夢が選ばれたという一通のお知らせを手にしたとき、びっくりしたとともに「夢」が叶うという喜びでいっぱいになりました。

しかし、夢が実現するまでの道のりは大変なものでした。『映画』ってどのように作るの? 『どんな内容の映画を作るの?』、全く分からない中でのスタートとなりました。

そんな私たちの夢を実現するために、地域の方々やPTAの役員の方々など映画を作るために実行委員



映画づくりの現場を見学 見えない努力を実感

会が結成されました。何度も何度も皆さんの話し合いをしてくださり、映画のストーリー作りに始まり、脚本、撮影スタッフ、出演者、日程などが正式に決まったのは、話し合いが始まってから何と約8カ月後のことでした。映画作りの大変さを感じ、実行委員会の方々への感謝でいっぱいになりました。

撮影1カ月前、映画スタッフの方々へのあいさつを兼ねて、映画作りをしている現場を見学させていただきました。映画監督さんたちと会



うと聞いてとても緊張していた私たちですが、気さくな皆さんですぐに打ち解けることができました。

見学を通して分かったことは、私たちが普段見ている映画とは違い、目には見えないところでこんなにも多くの方が携わっているということでした。また、1つの場面を撮影するのに、何度も何度もやり直しがありました。よりよいものを作ろうとしているのだと感じました。

子どもたちの夢が いつしか大人全員の夢に

たくさんの時間を重ねながら、い



よいよ私たちの夢が実現する時がきました。撮影は昨年の9月27・28・29日の3日間。1日目は学校を中心に、2、3日目は高美が丘の地域を中心に撮影が行われました。

1日目の学校での撮影では、5年生を中心に全校児童が撮影に協力してくれました。2、3日目の地域での撮影では、出演してくださる方はもちろん、その他大勢の方々がスムーズに撮影ができるよう、道路を封鎖するなどの交通整理やいろいろな物の準備をしてくださいました。また、2日目だけの撮影予定者の方々が3日目の撮影にも急ぎょ快く参加してくださったり、特殊撮影のために夜



遅くまで撮影に協力してくださったりと、多くの方々の支えがあつてこそその撮影でした。いつも多くの方々が見守ってくださいさる中、個性豊かな出演者の方々や映画スタッフの方々の心づかいで笑いが絶えませんでした。

天候にも恵まれ、地域にある名所の仙石庭園も使わせていただいたりしながら、無事に映画の撮影を終えることができました。撮影にかかわってくださった方が、「子どもたちの夢が、いつしか私たち全員の夢になっていた」と言ってくださってとてもうれしかったです。

高美が丘小学校 「夢配達人プロジェクト」活動発表



映画監督の講演会を実施 メディアで広くPR

今回の夢配達人プロジェクト事業の一環として、東映の田崎竜太監督さんをお招きし、講演をしていただきました。田崎監督は、「科捜研の女」や「仮面ライダー」シリーズの監督です。映画づくりにおける苦労や工夫、喜び、特殊撮影の方法や役者さんたちの様子なども、聞き取ることができました。

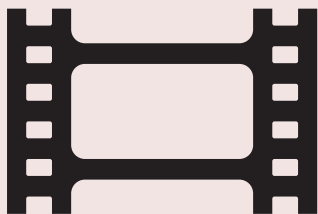
今回の取り組みは、NHK、中国新聞、FM東広島や地域情報誌など、さまざまなメディアに何度も取り上げられました。そのおかげで、広々とした地域の方々に知っていただくことができました。

何事にも一生懸命、 本気で取り組む厳しさも実感

こうして完成した作品が「住処は心の鏡 高美が丘クリーンアップ大作戦」です（会場で上映）。タイトルに「住処は心の鏡」と表現したように、ごみのポイ捨てのないきれいな町づくりに向けて私たち小学生が町の人の心や行動を変えていくという内容でした。

今回の撮影を通して、何事にも一生懸命取り組むことで、一つの素晴らしいものが出来上がるということが分かりました。わずか数秒のシーンを撮影するのにも何度も撮り直しをしました。失敗は許されないという緊張感とともに、本気に取り組むことの厳しさも感じることができました。また、島田監督さん、スタッフの皆さんがそれぞれの持ち場を真剣にやり切る姿を見て、こだわりをもって取り組むことの大切さも学ぶことができました。

最後に、今回の私たちの夢を叶えるにあたって、映画スタッフの方々はもちろんのこと、地域の方々、PTAの方々にたくさん支えていただきました。同級生の友達やその他の学年のみんなにもたくさん協力してもらいました。その支えや協力で、この映画が出来上がりました。感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。





【発表を終えて】

「夢配達人プロジェクト」の活動報告という、大役を果たした3人。それぞれの感想を紹介します。

◆竹中亜花里さん

発表の最終原稿が確定した時は、不安でいっぱいでした。何度も何度も原稿を読み返し、「よし、大丈夫！」という自信がついてきた時には、もう本番の前の日でした。

11月1日、本番の日です。リハーサルの時にはあまり上手に出来なかったので、本番で上手くいくかどうか不安で仕方ありませんでした。

「頑張れ！」と親や友達、先生方の応援のおかげで少しずつ自信を取り

戻して、勇気がわいてきました。会場には大勢の人がいました。

「ドキ・ドキ・ドキ」。本番が近づくとともに心臓の音が速くなっていきます。いよいよ本番です。私は口から心臓が飛び出しそうになるくらい緊張していました。でも、「たくさんの方々のおかげで私たちは今この場に代表として立っているんだ」と思うと、少しずつ緊張が解けていって責任感の方が強くなってきました。

そして、皆さんに感謝の気持ちを伝えるために落ち着いて、ゆっくりと気持ちを込めて発表しました。終わった時には達成感でいっぱいでした。

この発表を聞いてくださった方々が、「環境をきれいにしている」という気持ちを持ってくれたらとてもうれしいです。私も環境をきれいにしていくために、地域の掃除など自分ができることに進んで取り組んでいこうと思いました。

◆原 響子さん

私は今回の夢が叶ったときは、本当にびっくりしました。この夢の実現について今回発表し、たくさんの方々に知っていただくことができました。

この夢を叶えるにあたって、地域

の方々、PTAの方々、同級生や他の学年の友達などたくさんの人に支えてもらいました。そのおかげで夢が叶ったことに心から感謝しています。また、映画スタッフの方々との撮影を通して、人と交流することの大切さも学ぶことができました。

今回の夢配達人プロジェクトでは、学ぶこと、感動することがたくさんありました。そして、ゴミのきれいな町づくりのきっかけを与えてもらえたと思っています。たくさんの方がこの映画を見て「ゴミのポイ捨てはやめよう！」と思ってくれたいです。

「住処は心の鏡」です。私もきれいな高美が丘にするために、いろいろなボランティア活動に参加していきたいです。

◆永見優衣さん

今回「夢プロ」について発表をする機会をいただくことができた聞いて、とてもうれしくなりました。だから、発表のためにたくさん練習を重ね、本番の舞台上に立ちました。

リハーサルの時はがらんとしていた客席とは全く違い、ほとんどの席がお客さんで埋めつくされており、礼をすると同時に大きな拍手が響きわたりました。その時「私たちの発表のために、こんなに多くの方々がこの会場に足を運んで下さったんだ」ととてもうれしくなりました。

本番での発表は、練習・リハーサルの時より何倍も上手に出来ました。発表が終わったとき、再び大きな拍手をしていただき、その拍手はなかなか鳴り止まなかったことが心に残っています。同時に、私たちのつたない発表を最後まで聞いてくださった皆さんは本当に素敵な人たちだと感じ、私自身の心が「ホッ」と温かくなりました。

もともとは4年生の時に「できたらいいよね。まあ、無理だけど」と軽い気持ちで送った一枚の応募用紙。その夢は多くの方々のおかげで実現し、さらにはこのような発表の機会までいただき感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。



「子ども・若者育成支援強調月間（11月）」 あいさつ・声かけ運動 街頭啓発キャンペーンの 実施について

～あいさつ・声かけ運動の広がりを目指して～

1. 概 要

県内各地で取り組まれている「あいさつ・声かけ運動」の更なる広がりを目指し、子ども・若者育成支援強調月間（11月）に、JR広島駅など県内3会場で街頭啓発キャンペーンを行います。

2. 目 的

次代を担う子供・若者が、夢や希望を豊かに育み、心身ともに健やかに成長することは県民すべての願いであり、家庭・学校・地域社会等が一体となり、地域ぐるみで子供・若者を育成することが重要です。

大人が子供・若者と向き合い、理解しあう姿勢を持つことが必要であるという視点から、コミュニケーションの第一歩である「あいさつ・声かけ」の輪を広げ、県民総ぐるみ運動となるよう、重点的にキャンペーンを実施します。

子ども・若者育成支援強調月間に合わせて11月に
県内3カ所で「あいさつ・声かけ運動」を実施しました。

～街頭啓発に参加いただいた団体～

11月5日 広島駅

- 公益社団法人青少年育成広島県民会議
- 広島市青少年健全育成連絡協議会
- 広島県地域女性団体連絡協議会
- 広島市地域女性団体連絡協議会
- 広島市子ども会連合会
- 広島県高等学校PTA連合会
- 広島県少年補導員連絡協議会連合会
- 広島市教育委員会 ○広島県議会
- 広島県 ○広島県教育委員会
- 広島県警察 ○中国運輸局
- 交通関係事業者 ほか



11月6日 五日市駅



- 公益社団法人青少年育成広島県民会議
- 広島市青少年健全育成連絡協議会
- 広島県地域女性団体連絡協議会
- 広島市地域女性団体連絡協議会
- 広島市子ども会連合会
- 広島県高等学校PTA連合会
- 広島県少年補導協会員連絡協議会連合会
- 広島市教育委員会 ○広島県議会
- 広島県 ○広島県教育委員会
- 広島県警察 ○中国運輸局
- 交通関係事業者 ほか

11月7日 海田市駅



- 公益社団法人青少年育成広島県民会議
- 青少年育成海田町民会議
- 広島県PTA連合会
- 広島県少年補導協会員連絡協議会連合会
- 海田町教育委員会 ○広島県議会 ○広島県 ○広島県警察
- 中国運輸局 ○交通関係事業者 ○海田大正町郵便局
- 海田小学校 ○海田西小学校 ○海田西中学校 ほか



※広島県が行う「広島県麻薬・覚せい剤乱用防止運動」及び中国運輸局等が行う「マナーアップさわやか運動」と連携して実施しました。

家庭で取組んでいただきたいこと

- 基本的な生活習慣としてのあいさつ・声かけの励行
～おはよう。おやすみ。いただきます。ごちそうさま。いってきます。いってらっしゃい。
- 家族揃って食卓を囲むことの励行
～食卓を囲んでの会話から、子どもの変化が感じられます。

学校で取組んでいただきたいこと

- 登下校時、学校内でのあいさつ・声かけの励行～通学路、校門、ホームルーム等
- 保護者に対する啓発活動～通信文、保護者会等を活用して

市町等で取組んでいただきたいこと

- 広報紙・会議・集会等での呼びかけ
- 関係機関・団体への協力要請

地域で取組んでいただきたいこと

- 登下校時等における声かけの励行～地域で子どもを育てる
- 地域住民が集い、声がかける場づくり～町内会行事・子ども会行事等への積極的参加の呼びかけ

事業所で取組んでいただきたいこと

- 店内での声かけの励行～いらっしゃい。お帰り。今日は早いね。早く家に帰ろう。

市町民会議は県民運動を推進する組織です いきいき地域活動紹介

県内各地の市町民会議が、地域の特性を生かした特色あるイベントを開催しています。今回は6つの活動を紹介しします。



北広島町青少年育成推進協議会

KITAHIROSHIMA

トム・ソーヤ スピリッツ 2014

～大自然で2泊3日遊びませんか～

青少年が健やかに育つことを願い、夏休みに大自然で思いっきり遊ぶキャンプを開催しました。その名は「トム・ソーヤ スピリッツ2014」。北広島町芸北地域の山中で2泊3日を楽しみます。平成18年に始め今年で9回目。小学生を対象に毎年多くの参加があり、応募をお断りすることもありました。

小学生が2泊3日キャンプ 中高生と大学生が指導

今年は、平成26年8月11日～13日の日程で、北広島町雄鹿原にある「社会福祉法人順源会ログハウス」へ。盆前にもかかわらず小学生の参加は46名。今回は初の試みでジュニアリーダー育成を目指し、中学生の参加も呼びかけ、16名の応募がありました。ジュニアリーダー育成による参加募集を聞きつけた高校生からも応募があり、快く参加となりました。参加人数は例年に比べて格段に多く、子供たちの安全面への配慮を心配しましたが、大人のボランティア参加と町内の小学校の先生の協力を得て行うこととしました。

キャンプの指導は、大学生ボランティア「カッパ組」の12人にリードしてもらいました。基本的に全体行動ですが、班行動によって安全面への配慮や統制がとれるため、小学生を8班に分けて各班に大学生とジュニアリーダーの中高生を配置。ジュニアリーダーの中高生にはキャンプ当初にリーダーとしての心得を教え、小学生の見本となり、大学生と共に指導する役割を担うことを学習しました。初日こそ緊張していたものの、小学生をリードしながらキャンプを楽しみました。

ピンチが好転、アイデアでさらに充実

かぶとむし大作戦・かまどづくり・早



朝登山・川遊び・キャンプファイヤー・焼き板作りなどを予定しましたが、前日の台風による川の増水で川遊びは中止に。大人ボランティアの方のアイデアで、川魚のさばき方教室を行うことにしました。講師はキャンプ場の近くに住む方に急遽お願いし、川魚は川遊びで仕入れた生きた魚を使いました。魚をさばいたことのない子供がほとんどで、最初は「気持ち悪い」「嫌い」と言いながら包丁を持って格闘。意外に面白かったようで、余っている魚までさばく子供も。大人ボランティアの方のアイデアに助けられました。

早朝登山は、午前3時半に起床して標高1069mの大佐山へ。頑張って頂上まで歩き、目下に広がる雲海を眺めながら朝食を食べました。達成感と普段見ることのない風景は、最高のごちそうでした。キャンプファイヤーでは、グループごとにスタンツを考え、炎のもとで披露。笑い感動に包まれました。「さよならの集い」では、別れを惜しんで泣き出す子供も。スタッフも思わずもらい泣きをしました。

大きなケガや事故もなく過ごすことができ、子供たちの成長と笑顔は十分余りあるくらいのもとなりました。

来年はいよいよ10回目の記念キャンプ。子供たちの成長と笑顔を楽しみに、推進委員みなでアイデアを出して盛り上げていこうと思います。

心にしみる標語が私たちを元気に 私たちを勇気づけます～標語募集～

青少年育成廿日市市民会議では、総会にさきがけ、学校の新学期の始まりとともに取り組む事業があります。

それは、子どもたちを取りまく状況が年々悪化する中で、子ども自身がまわりを見直し、自分の思いを標語にして伝えることにより、地域と学校・家庭を結びつけ、励まし、応援することができるを始められた標語募集です。平成が始まったところから続く事業です。

市内小中学校から募集 入賞作品を発表、特選は表彰式も

標語募集のため、新学期早々に廿日市市内小中学校28校に募集要項を配布し、20日後に回収します。本年は7,622点の応募がありました。この中から90点の入選作と10点の特選作を選出します。審査は当会の会員で行い、多くの会員が子どもたちの気持ちを思いやりながら、真剣に取り組んでいます。

選ばれた作品100点は、はつかいち文化ホールさくらびあで毎年7月第2日曜に実施する、「青少年育成廿日市市民大会（本年度は7月13日に開催）」の冊子に掲載し、特選作品は表彰式を行います。子どもたちの大きな励みになっています。

作品をパネルにして掲示 市民に勇気と感動を



その後、本年選出された作品をパネルに書き、市内の市民センター、学校、公園などの市民の目につく所に掲示し、子どもたちの思いを伝え、読んで下さる方に勇気や感動を与えています。本年は、このパネルの一部を廿日市市立佐方小学校の児童が、子どもらしい堂々とした書体で書いてくれました。

来年も、子どもたちの積極的な取り組みを期待したいと思っています。

昔遊びを体験、記録に挑戦 ～「子どもまつり」を開催～

平成26年11月9日（日）、今年も生涯学習フェスティバルの一環として「子どもまつり」を開催しました。

子どもまつりでは、「なわとび」、「靴とばし」、「輪投げ」、「鉄棒ぶらさがり」、「豆つまみ」の5種の競技に挑戦するチャレンジコーナーや、紙飛行機、ミニ帽子、折り紙などの創作コーナー、スロービーや昔の遊びのコーナーで、子どもたちが秋の一日を楽しみます。

今年は、朝のうちは雨に見舞われ来場者が少なかったのですが、午後から雨が上がると例年通りの賑わいとなりました。

チャレンジコーナーでは、午前中の雨脚が強かったために実施できなかった競技もあったのですが、今年もたくさんのお子どもたちが記録にチャレンジし、歴代1位の記録を目指して頑張りました。

昔遊びコーナーでは、普段あまり触れることのないコマや輪回しなどを体験。廿日市内の老



人会のみなさんの優しい指導でコツをつかみ、とても楽しそうに遊んでいました。

中高生ボランティアが 遊びをサポート

子どもまつりでは、毎年中高生のボランティアが、子どもたちの遊びをサポートしています。今年は朝から雨が降っていたので、中高生の皆さんには「来れたら来て下さい」と連絡していましたが…。雨の上がった昼前、参加予定だった中学生がほぼ全員来てくれました！

好天ではなくてもたくさんの来場者を楽しんでもらえたこと、小さい子のサポートをする中学生の笑顔が優しくてすてきだったことで、今年のお子どもまつりは、いつにも増して心温まるものとなりました。



故郷の歴史や自然を学び 一人ひとりが輝く未来を目指す



青少年育成三次市民会議は、市内19の町民会議で組織され、人権尊重・青少年健全育成を基底に事業を展開しています。今回は、川地・吉舎・甲奴町民会議の事業を紹介します。

川地町民会議 「みんなであそぼう会」

平成26年8月23日(土)、川地自治会館でイベント「けん玉にチャレンジ」を開催しました。講師は、けん玉発祥の地・廿日市で「kendama shop & salon 夢」を昨年オープンさせ、また日本けん玉協会西広島支部長でもある砂原宏幸さんです。息子さんと、小学生のお弟子さんとともに来ていただきました。

参加は20人あり、けん玉の持ち方や膝の使い方などを基本から教えていただき、子どもたちの「できた～」という声と笑顔が会場にはじけました。

吉舎町民会議 「ふるさとに誇りを持って羽ばたいて…」

尾道石見銀山街道の宿場町として栄えた吉舎町。古い街並みが残る町の史跡などを親子で歩きながら、吉舎町にちなむクイズに挑戦するウォーキ

ングイベントを継続して行っています。今回は親子50人が参加し、地元の高校、デニム生産工場、町並みなどを歩いて回りました。

甲奴町民会議 「生活に生かす体験」



今、子どもの体験活動が、“行事的、花火的、お客さんの”になりがちです。甲奴町民会議では指示待ちしない、自らが発想し行動することで失敗し、悔し涙を流し試行錯誤する中で素晴らしいものを見出し創造していきける子ども、すなわち子ども一人ひとりが主体的に活動し、将来に渡り生きる基礎になるものを体感し、身につける諸々の体験活動を仕組んでいます。

活動をするときには「アドバイスは

3つ、誉めることは7つ」を心がけています。例えば、しめ縄、竹細工（箸・茶わん・コップ・花立てなど）、パンとケーキ、古木のペンダント、ツタを活用したリース作り、登山による自然観察などを通して、自然や使う道具の危険性を学びました。魅力を知り、自然への親しみと畏敬の念、異年齢で助け合う友情を培い、生活の中で存在感を示し、手作りしたもの、体感した事柄に肌で喜びを感じられる活動をしています。



青少年育成三次市民会議そして町民会議では、意外と知らない故郷歴史や自然について学び触れることは、私たち古里の未来を支える世代をきっと育ててくれると信じています。一人ひとりが輝くことを目標に、これからもこうした取り組みを続けていきたいと思っています。



健全育成と地域文化の継承を目指して ～府中市の地域活動支援事業から～

青少年の健全育成と地域文化の若い世代への継承を推進していくため、当市民会議も県民会議の助成事業を活用しながら地域活動の活性化を図っています。今回は、所期の目的の達成を目指して毎年数多く取り組む府中市の地域活動支援事業の中から、土生町の「親子とんど」作りの取り組みを中心に紹介します。



干支飾りや親子とんどで活性化

土生町は、府中市の市街地から芦田川を挟んだ南側に位置しています。以前は、田畑の多い地域でしたが、現在は市街地から近いこともあり宅地化が徐々に進んでいます。12月現在の世帯数が約400戸の町です。

土生町では、町の活性化を図るため、平成7年から壮年会を中心にとんど作りに取り組んできた経緯がありますが、とんどを立てるための場所が確保できなくなり、4年間ほど中断しました。17年（酉年）から現在の芦田川川敷でとんど作りが可能になり、復活しました。この年から、より多くの人に関心を持ってもらえるように干支の動物を張子で作り、とんどに飾るようになりました。この取り組みは、壮年会が中心になって続いています。

18年からは、子ども会に呼びかけて「親子とんど」を作っています。子ど

もたちからその保護者まで、より若い世代が一緒になってとんどを作ること、地域の活性化をさらに図ろうとしています。

完成した「子とんど」が「親とんど」と並んで立つ姿に、また、子どもたちの喜ぶ姿や若い世代へととんど作りが伝わっていくうれしさに関係者一同感激したそうです。

例年は1月10日前後の日曜日に、とんどに火をつけて餅を焼いて一緒に食べることで親睦を深めていたのですが、より楽しく参加してもらえよう、参加者へ豚汁の接待をすることなども工夫しています。

土生町の子ども数は、他の地域と同じように減少してきていますが、毎年多くの参加者によってにぎやかに「親子とんど」作りが続けられています。

若い世代が主役になれる工夫

土生町のように地域の伝統文化を生かし、新たな伝統を作り上げていこうとする活動は、その他の地域でも活発に行われています。町内の祭りや文化を子どもたちや若い世代に引き継いでいくための工夫も各地域に見られます。地域で継承されてきたお盆の行事や秋祭りで、子どもたちや



若い世代を主役にしていくような活動がそうです。

例えば、町内会が地域の育成組織と連携しながら、地域の文化財の見学などを通じて歴史と文化を伝えていこうという試みです。今のうちに伝えておかなければ、歴史・文化の伝承が途切れてしまうという危機感があるからです。

また、地域の企業を三世代で見学することで、世代を超えて親睦を深めながら、地域のことを深く知るための共通の体験をしようとする活動などです。

少子化が進む中、地域社会の次代の担い手不足は各地域に共通した悩みや不安です。当市民会議は、このような地域活動がより充実した取り組みとなるように、今後も支援を続けていきたいと考えています。また、機会をとらえながら、活動がより充実することを目指して、町内会の協力を得ながら実践発表や実践交流なども計画しています。



呉の子どもを守る会議

KURE

保護者・地域と共に

～呉市立下蒲刈中学校の活動を中心として～

「呉の子どもを守る会議」では、11月11日「ひろしま教育の日」に合わせて、子どもたちが安心して登下校できるよう啓発用ティッシュを配布し、街頭啓発活動を実施しています。また、日常的に巡回パトロールを行ったり、不審者情報メール配信システムにより、登録者に情報を発信したりする等、「呉の子どもは呉のおとなが守る」という意識を高め、市民啓発の充実を図っています。

呉市では、本事業を『保護者・地域と共に』をモットーに、地域に愛され地域のために頑張っています。地域と共に活動している下蒲刈中学校の様子を生徒たちの姿を通して紹介します。



小学生・中学生・保護者・地域の方たちと共に、『下蒲刈音頭』を運動会で踊る(5月)

小・中合同運動会は、5月に開催されます。プログラムの最後に『下蒲刈音頭』を児童・生徒・保護者・教職員そして女性会や地域の方たちと踊ります。『下蒲刈音頭』は、下蒲刈の特産物や地域の特徴が歌に織り込まれていて、とても親しみやすい踊りです。運動会の前に、女性会の方たちから『下蒲刈音頭』をご指導いただき、小学生の時から地域の方々と共に楽しく踊り、地域を盛り上げています。

また、地域の消防団の方々も運動会に参加し、小中合同運動会を盛り上げてくれます。

親子で行う空きビン回収

夏休みに、親子・教職員が下蒲刈の島内を回り、空きビン回収します。朝、1軒1軒に中学生が元気よく声をかけ、ビンを回収して回ります。毎年、夏の恒例行事となっているため、地域の方たちも、空きビンを貯めておいてくれます。

空きビン回収が終わると、中学生は保護者に日頃の感謝をこめて、昼食(カレーライス・デザート等)を作り、親子昼食会を楽しみます。



カレーライスをみんなで食べる

梶ヶ浜クリーンキャンペーンとビーチフェスタ

下蒲刈島の海水浴場「梶ヶ浜」をきれいにするため、小学生と協力して『海びらき』の前に清掃活動を行います。中学生がリーダーシップを発揮しながら、縦割りのグループで清掃活動を行い、地域の海びらき『ビーチフェスタ』に向けて、海辺はとてきれになります。



梶ヶ浜の清掃活動

『ビーチフェスタ』当日は、小学生は歌と太鼓を、中学生は下蒲刈中ソーランと下蒲刈太鼓を披露し、地域の方



生徒たちの太鼓演奏

や島を訪れた方たちに元気を届けています。地域の方は、下蒲刈島の特産物を販売したり、女性会はうどんや鯛飯や炊き込みご飯を作り、販売したりしています。小学生や中学生は女性会の方が作ってくださったうどんや炊き込みご飯を頂きます。

朝鮮通信使再現行列 PTAと共にバザー

毎年10月には、「朝鮮通信使再現行列」が盛大に行われ、下蒲刈中学校のグラウンドは式典(国書交換式など)の会場となります。PTAはその日バザーを行い、中学生は、保護者が作ったうどんやたこ焼き・フライドポテト等を売り子となって協力し、「朝鮮通信使再現行列」を見に来られた地域の方や島を訪れた方たちに販売し、コミュニケーションの輪を広げています。

また、当日中学生はステージで、「下蒲刈太鼓」を多くの島を訪れている方や温かく見守り育ててくださっている地域の方へ、日頃の感謝の気持ちを込めて精一杯太鼓を叩きます。生徒も保護者も教職員もお揃いの『熱島下蒲刈』のTシャツを着て、PTAバザーの売り上げに協力します。地域の方は、みな顔見知りばかりで、生徒たちの販売にとて協力してくれます。

青少年の健やかな成長のための取組について、引き続き、「呉の子どもは呉のおとなが守る」という意識を常に持ち、地域と一体となって活動を推進していきたいと思います。

地域が一体となった青少年の健全育成 ～あいさつ運動、健全な家庭づくり推進事業～

「挨拶で心を結ぶ坂の町・ あいさつパレード」



あいさつ

「挨拶は人より先に私から」「おはようの笑顔がうれしい明るい家庭」広報車と横断幕を先頭に毎年5月、青少年育成坂町民会議総会前に「あいさつパレード」を開催しています。午前10時、町民会議会長をはじめ、町長、議長、海田警察署長、教育長他、関係団体の代表者、地域住民、各種スポーツ少年団員等、老若男女、約700名が地域の女性団体会長の発声を合図に出発、近隣の商業エリアから町民会議総会会場である町民センターまで約20分の道程を道行く人に声をかけながら「やさしさと思いやり」の輪を広げていきます。

また、毎月第三火曜日、地域の女性団体の皆さんが広報車に乗込み、道行く人に積極的に声をかける「あいさつ運動」を実施しています。帰宅途中の幼児、児童、生徒や町民の皆さんも手を振り返してくれたり、大きな声で「あいさつ」してくれます。

「あいさつ」が人の気持ちを揺り動かし、よりよい人間関係を築く橋渡しとなっています。本事業を通じ、「あい

さつ」には、人と人との心を結ぶ不思議な力があるように実感しています。

坂町では「礼節」を基本とした教育を推進しています。

各小中学校が、校長会の発案により「礼節週間」等独自の取組を実施しており、行政と町民会議、保護者や地域の皆さんが一体となって青少年の健全育成に取り組んでいます。

「親子水でっぼうづくり」

毎年「家庭の日」には、健全な家庭づくり推進事業の一環として「親子水でっぼうづくり」を実施しています。準備された竹を日ごろ使い慣れない工具を駆使し、親子等で協力し水でっぼうを作製します。その後、手づくりのそうめんとおむすびも振舞われます。

お父さんさんがのこぎりを引いたり、お姉ちゃんがきりで穴をあけたり、おじいちゃんがナイフで竹を削ったり、おかあさんが細竹に布を風糸で結んだり。今ではもう家庭で作ることなくなった昔遊びの道具を作製することを通じ、家族が一致団結、日ごろ見る



水でっぼうで遊ぶ

ことのない家族の一面を発見することもあるようです。



そうめん流し

お楽しみの「そうめん流し」です。手作りの竹のレールの中を白くて美味しそうなそうめんが勢よく流れていきます。容器にお手製のつゆを入れた高学年の児童は、上手から一気にすくいあげます。小さな幼児は、下手でなかなか食べることが出来ません。親の手をかり食べる者、辛抱強く狭間から流れてくるそうめんを待つ者、様々です。2日がかりで準備したそうめんとおむすびは、楽しい時間とともにあっという間に消えていきます。

この事業の申込は、事前申込のみで当日申込を受付けていません。これは、材料である竹のすべて、水でっぼうで使うものはもとより、そうめん流しで使用する容器からはしに至るまで手づくりです。この竹も役員や地域の有志の方々が山から直接伐りだし作られるもので、限定的で準備に非常に時間を要するからです。そうめん流しのだしとおむすびも手づくりで、役員と地域の女性団体の皆さんが2日がかりで準備されます。

現在、このように地域住民や関係団体のご協力により、夏の恒例事業として定着し、毎年楽しみにしている方もたくさんいらっしゃいます。参加人員も200名を越える人気の事業です。

今後とも、本事業が家庭における親子のふれあいの場の創出となり、地域が一体となって家庭づくりを支える地域社会づくりの推進の一助となるよう努めたいと思っています。

夢配達人 プロジェクト推進事業

～子どもたちの夢をみんなの協力で実現させました!～



県内の小学生から夢を募集し、選ばれた夢を実現する子どもたちの取り組みを、学校や地域の人たちが夢配達人と一緒に支援する事業です。平成25年度に採択され、平成26年度に実現した「夢」を紹介します。

平成25年度採択 平成26年度実現した「夢」(応募件数1,244件)

市町名	(グループ名) 応募者名(学校名・学年)	夢の概要
広島市	きむら みやび 木村 京珠(段原小5年生)	みんなに手伝ってもらって、広島の食材を使ったお寿司を作りたい。
広島市	まとば まい 的場 舞(可部南小4年生)	自分たちで米を作り、その稲わらでぞうりを作りたい。
福山市	たなか ひびき 田中 響(緑丘小6年生)	巨大イルミネーションを作って、地域みなさんへ感謝のメッセージを伝えたい。
福山市	(松塩) たけみつ やまと 竹光 大和(松永小3年生) のほりたて みさき 登立 光咲	地域や学校の人々と一緒に昔の塩づくりの方法で松永の塩を作りたい。
三次市	ながはた さや 長畑 桜弥(八幡小4年生)	専門家に手伝ってもらって、地域にある滝をきれいにして探検したい。
大竹市	しまづ みゆ 島津 美夢(小方小6年生)	島の人達ともちつき大会をして、交流したい。
東広島市	みちおか さきと 道岡 咲翔(三永小3年生)	レゴブロックで厳島神社や原爆ドームを本物そっくりに作りたい。
廿日市市	(ISI20) むかい ゆりあ 向井 優里彩(阿品台西小6年生)	学校のシンボルツリー「双けやき」の絵本を作りたい。
北広島町	(スマイルチーム) しらまさ りん 白砂 凛(大朝小5年生)	大朝を舞台にしたドラマを作りたい。

広島市

みんなに手伝ってもらって、広島の食材を使ったお寿司を作りたい。(段原小学校)

夢配達人の梅口和昭さんから、お寿司の歴史や作り方について学び、みんなの思いが詰まったメニューを完成させました。2月にレモン農家さんの元を訪れて広島レモンについて学び、3月、いよいよお寿司作りに取り組む予定です。



夢配達人・梅口和昭さんによる講義。みんな真剣な表情で話を聞いていました。

広島市

自分たちで米を作り、その稲わらでぞうりを作りたい。(可部南小学校)

夢配達人の一員である上原女性会のみなさんのご指導のもと、子どもたちがわらぞうりを作成しました。子どもたちが田植えを行った田んぼは8月の豪雨災害で被害に遭ってしまいましたが、新たに地域の方に田んぼをお貸しいただき、稲刈り体験とわらぞうり作りを実現させることができました。



5月、地域の方にご指導いただき田植えを行いました。この田んぼは豪雨災害の被害を受けてしまいました。



10月、新たに地域の方のご厚意でお貸しいただいた田んぼで、稲刈り体験をさせていただきました。



5年生全員でわらぞうり作り。保護者の方も多く参加され、子どもたちが作成する様子を見守っていました。



夢応募者の的場さん(隣はお母さん)。

福山市

巨大イルミネーションを作って、地域のみなさんへ感謝のメッセージを伝えたい。(緑丘小学校)

12月5日、巨大イルミネーション点灯式を行いました。夢配達人である福山大学の田中先生をはじめ、地域や保護者のみなさんなどたくさんの方々が見守る中、6年生の子どもたちがこぐ自転車で起こした電力で、見事点灯させることができました。



地域で集めたペットボトルをつなげて作成しました



3つのハートは学区を形成する3地区を、真ん中の丸と三角は、それを結ぶ緑丘小学校を表します。



電力は自家発電。子どもたちが10台の自転車をこいで、イルミネーションを光らせます。



全てのイルミネーションが点灯!地域の皆さんと子どもたちみんなの思いが繋がった瞬間でもあります。

福山市

地域や学校の人々と一緒に昔の塩づくりの方法で松永の塩を作りたい。(松永小学校)

松永地域の塩づくりについて調べ学習をしたり、地域の方の話を聞いたりして学習を進めています。学校の花壇の一部を塩田に作り変え、塩づくりを体験しました。これから、より純度の高い塩づくりに挑戦するため、準備を進めています。



地域や保護者の方々の協力のもと、たくさんの作業工程を経て作られた塩田。元は花壇でした。



海水を含ませ乾燥させた砂から、より塩分濃度の高い海水(かん水)を作ります。



高濃度にした海水(かん水)を煮詰めて、塩を作っていきます。



三次市

専門家に手伝ってもらって、地域にある滝をきれいにして探検したい。(八幡小学校)

夏休み最後の8月31日、一の滝から三の滝まで探検し、見事、品の滝を完全制覇しました。夢配達人の一員である「馬洗川自然塾」「さとやまシュアリングネイチャーの会」「雲通(うすい)青年会」のみなさんが応援に来てくださいました。応募者の長畑さんは、「これからも悠久の自然を守り、未来にこのままの状態を渡していくよう活動していきたい」と、思いを新たにしていました。



5月7日、草刈りなどの環境整備を行った後、間伐材を使ってベンチやオブジェを作成しました。



6月23日、品の滝の植物や昆虫などについて調査を行いました。



8月31日、品の滝探検の様子。途中にある小さな滝は、ハーネスを使って登りました。



三の滝に到着。品の滝完全制覇です!

大竹市

島の人たちともちつき大会をして、交流したい。(小方小学校)

11月23日、阿多田小学校の閉校とともになくなっていたもちつき大会が復活しました。前日や早朝から多くの地域の方々が準備に協力して下さり、子どもたちと大人たちの笑顔あふれるイベント実現となりました。



夢応募者・島津さん家族による「つき初め」。

味つけは、きなこ・ココア・砂糖醤油、チョコ、フルーツポンチからお好みで。阿多田島婦人部のみなさんが用意してくださったお雑煮とぜんざいもありました。



もちを丸めるのも、みんなまで。



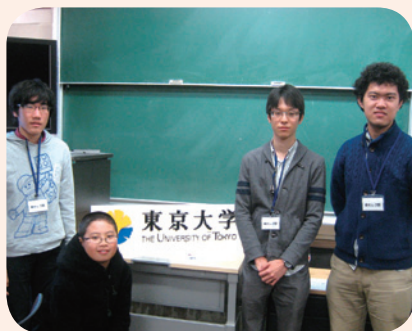
最後に全員で記念撮影。もちつき大会は大盛況のうちに終了しました。



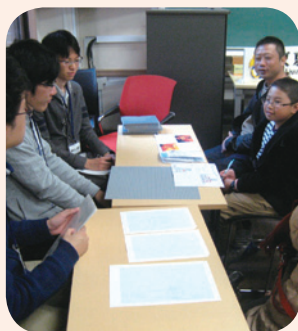
東広島市

レゴブロックで厳島神社や原爆ドームを本物そっくりに作りたい。(三永小学校)

11月、学園祭の開催にあわせ、東大LEGO部を訪問しました。3月の完成を目指し、世界遺産である原爆ドームの制作に取りかかります。



東大LEGO部のみなさんと。



LEGO制作について、アドバイスをもらいます



たくさんのLEGO作品に囲まれ、ワクワク。制作へのイメージも固まってきました。



指導してくださったお兄さんと、がっちり握手する、応募者の道岡咲翔くん。

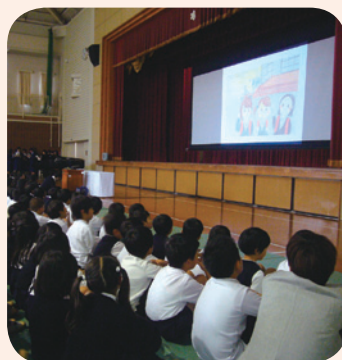
廿日市市

学校のシンボルツリー「双ケヤキ」の絵本を作りたい。(阿品台西小学校)

11月、完成した絵本「わたしたちの双ケヤキ—阿品台西小学校の双ケヤキの物語—」を全校児童、保護者、地域の方々に披露しました。応募当時6年生だった向井優里彩さんたちは、卒業後も在校生と一緒に絵本作成に取り組みました。



絵本作家の朝川照雄さん、よこみちけいこさんに、夢配達人としてご指導いただきました。



発表会の様子。絵本を朗読し、「大きなケヤキを育てたい」という歌を全員で合唱しました。



今も校庭に残る双ケヤキと一緒に記念撮影。



完成した絵本。校庭で枯れかけたケヤキを児童たちが救った実話がもとになっています。

北広島町

大朝を舞台にしたドラマを作りたい。(大朝小学校)

大朝の良さが伝わるドラマの作成に取り組んでいます。地域の方々のご協力を得て、撮影はほぼ終了。年度内の作品披露を目指して編集作業に入っています。



4月25日、大朝小学校出身の児童文学作家・倉橋耀子さんを夢配達人にお迎えし、ドラマの内容について話し合いました。



「撮影、がんばるぞー!」



地域の方々のご協力を得て、子どもたちがビデオを回しています。



撮影の合間には、大朝の良い所などたくさん楽しいお話が聞けました。

県民活動をより活発にしていくなために

地域における機能的な運動組織である各市町民会議活動の普及促進を図るために、当県民会議では毎年、市町民会議ネットワーク研究・交流会を開催しています。今年度は8月29日（金）、福山市のアルセで実施。各市町民会議の関係者・青少年育成県民運動実践委員・青少年育成地域リーダーが集合しました。

平成26年度 市町民会議ネットワーク 研究・交流会

●講演会



講演会では、折り紙ヒコーキ協会会長の戸田拓夫氏を講師に迎え、

販売を主軸とする会社「㈱キヤステム」（本社広島県福山市）の社長でありながら、今も紙ヒコーキの記録更新に挑戦中。革新的な紙ヒコーキづくりに人生を捧げている。

誰も評価してくれない
好きだから作り続けた

紙ヒコーキ
との出会いは、
大学の理工学
部に入って間
もなくのこと。
無理な生活
がたたって寝
込む日が続き、
暇つぶしに紙



ヒコーキを折り始めたのがきっかけで
した。折っては飛ばしを繰り返している
うちに、下宿部屋は紙ヒコーキで埋め尽
くされ足の踏み場もないほど。大学の授
業に出席もせず、気が付けば落ちこぼれ
に。家主が「様子がおかしい」と心配した
ほどです。大学を中退して故郷の福山に
戻り、家業の精密鑄物工場を継ぎました。
1枚の紙で世界記録に挑戦
こだわりを世界にアピールしたい

人生ごん底の時に編み出した紙ヒ

コーキ。1枚の紙から、はさみもテープ
も使わずに立体的な紙ヒコーキが完成
します。デザインは70種類あります。

当時は誰にも評価されることはありませんでした。ある日、私の紙ヒコーキが新聞で取り上げられ、多くの人の目にとまることになりました。

ギネスの記録にも挑戦しました。当時、滞空時間の記録は1位がアメリカ力27.7秒、2位はイギリス20.5秒。私は19.2秒でしたから、1位とは8秒差があります。逆転するためのヒントを、今まで捨てていた紙ヒコーキの中から探しました。

折り方と重心の位置、飛ばし方を変えてデータをとりました。投げ方の研究も重ね、力で投げるのではなく、体全体のしなりの動きを利用する投げ方を見出しました。より飛ばすために、82kgの体重を68kgに。そして、29.2秒という世界1位の記録を達成することができました。

宇宙航空開発機構（JAXA）で「地球に向かって宇宙から飛ばす」という実験が





採用されました。東京大学研究者らと連携し、耐熱性の紙を使った実験で、大気圏に突入する条件に近い「マッハ7、摂氏200度」

に耐える実験にも成功。「夢配達人プロジェクト」でも取り上げていただきました。

今では紙ヒコーク先生として、学校や企業、イベント、テレビ番組などで紙ヒコークの折り方を指導しています。紙ヒコークを通して日本の技術の高さやこだわりを、世界にアピールしていきたいと考えています。

夢は目標であり達成するもの 子どもたちにも伝えたい

紙ヒコークを作り続けることを、どれほど馬鹿にされたかわかりません。子どもたちも、自分の目標を信頼している人に否定されることがあるかもしれません。それを覆すのは熱意です。達成できたことに、世論は変わっていくのです。目標を見つけたらやらなければならな

いし、好きなら続けるべきです。

私は、夢という言葉あまり使いません。夢は、絶対に成し遂げるものであり、目標と言い換えます。目標を達成させるには、いつまでに何をどうすればいいかをしっかりと考えます。この考え方を子どもたちに伝えていきたいし、先生方にも理解していただきたいと思っています。ぜひ、子どもたちの目標を見守り、バックアップしていただきたいと思います。ご清聴、ありがとうございます。

●実践発表①

靱学区まちづくり推進委員会会長の大浜憲司氏が「子どもを取り巻く諸課題・大人としての責任について」を発表しました。



参加させていただきました。夢プロには

私は常々、

「自分自身が高まること」を心掛けて人と接しています。そんな思いから、「夢配達人プロジェクト」にも

福山で8件採択されています。学力と想像力が両輪として機能しているありがたい事実であり、そのうち2件が鞆ということに誇りに思っています。

鞆にある小学校も中学校も校章はナデシコがモチーフになっています。花言葉は、純粋な愛情。それが鞆という町の風土だと思っています。

子どもを育てる一番の力は家庭、その次は地域です。地域力が弱ってきている今こそ、絆を大切にしていかなければならないと思っています。

●実践発表②



福山市立靱小学校琴くらぶの指導者、川崎みつ子氏が、平成22年度の夢配達人プロジェクト「福山の伝統工芸である琴を作り、たくさんの人に聞いてもらいたい」を振り返りました。発表後、参加者と一緒に備後紆(かすり)を使った工芸品の備後紆つきぎを作りました。川崎さんの発表内容を紹介します。

◇

互いの思いやりが共感を呼び、みんなで感動と達成を体感した夢プロジェクト。友を誇り、友

を思いやる心が宝物となりました。夢を持つ喜びは自分が何を始めることが大切かを考えさせ、未来への自づくりに磨きをかけています。青き少年少女は、『碧き成年へ』と成長し、互いの信頼と尊敬を持って誰からも愛される大人に向かって、今、歩み始めています。

●交流会

川崎さんが指導する靱小学校の児童が琴を演奏。美しい調べに会場の雰囲気が一層和やかになり、参加者は交流を深め、情報交換を行いました。



青少年育成カレッジ「総合講座」の紹介

青少年育成広島県民会議では、公立大学法人県立広島大学と連携して、平成19年から「青少年育成カレッジ」を開講しています。青少年の心や行動、生活を多角的に理解し、時代や青少年のニーズに対応した育成・指導ができる青少年指導者等を養成するための総合講座です。今年度は、平成26年10月11日、11月15日に行いました。

※詳しくはHPをご覧ください。 <http://www.hiro-payd.or.jp>

第1回 「ネット社会が与える影響」

講義 1

■「ネット社会の光と闇」

現代に生きる私たちの生活や意識の中にネットは確実に浸透してきています。ネットのネガティブな側面を経験し、深く傷つく子もいます。ネット社会の現実を直視し、これからあるべき社会の姿について学習しました。



西野 泰代
広島修道大学人文学部 教授

講義 2

■「親が把握しなきゃいけない子どもが使うケータイの実態とその対策」

不特定多数の人、見ず知らずの人と簡単につながってしまうケータイ。子どもたちのケータイ利用実態を知り、あえて昔から変えてはならない人間関係を伝えていく大切さを改めて考えました。



尾崎 公幸
広島市電子メディア協議会 会長

講義 3

■「人格形成は家庭教育から」

ネット依存など、子どもたちが多くの課題を抱えているのは、家庭の教育力が低下していることが大きく影響しています。規範意識や道德観、正義感など豊かな人間性を育むためには、何よりも家庭の教育力を高めることが必要であることを再認識しました。



岸房 康行
NPO法人心豊かな家庭環境をつくる広島21 理事長

講義 4

■「ネットとマスメディア」

インターネットに絡む非行や犯罪は増加の一途をたどり、青少年の健全育成の大きな障害にもなっています。ネット社会の「負」の側面をマスメディアはきちんと伝えているのでしょうか。これまでに報道されたインターネットに関する新聞記事を事例に挙げ、検証していきました。



今中 亘
中国新聞社 特別顧問

第2回 「若者と依存症」

※午後の部(第3講義、第4講義)は講師の都合により休講

■講義 1

「若者のネット・ライン問題と依存症 I」

ネット依存・ケータイ依存は大きな社会問題。一日中、インターネットや携帯電話にしがみつくと若者が急増しています。なぜ若者はバーチャルな世界に依存するのかを、いろいろなデータを挙げながら分かりやすく説明。子どもの死生観について、15.4%の児童生徒が死んでも生き返るというデータに注目が集まりました。また、中学女子の半分以上が会ったこともない人とメールをし、結果、性非行に巻き込まれる可能性が高くなっていることも分かりました。また、10代から30代の死因上位に自殺が入っています。今一番懸念されることは、若者と大人との社会的なつながり、いわゆるソーシャルボンドの不足と言えます。

金山 健一

県立広島大学
総合教育センター准教授
学生相談室長



■講義 2

「若者のネット・ライン問題と依存症 II」

ネットやケータイ依存になっている若者の危険性について、事例を通して学びました。ケータイ所持が急増するのは学童保育を終了した小学校4年からで、その予防教育の重要性を認識しました。ケータイ被害が急増する中学期では遅いのです。

また、子どもにケータイを所持させる場合には、事前に子どもと話し合い、家庭において次のようなルール作りが大切です。

1. フィルタリングを設定する。
2. 3分ルールは使わない。(ラインにおける返信)
3. 食事中、勉強中は電源を切る。
4. 寝る時は電源を切る。
5. 困ったときは相談する。
6. ルールが守れない時は使用禁止にする。

金山 健一

県立広島大学
総合教育センター准教授
学生相談室長



■「認証状」授与式

青少年育成カレッジでは、所定の20単位(1講座を1単位)を修得された方に、学習したことを評価して「認証状」を授与しています。これまで43名の方が修得されていますが、平成26年度は新たに6名の方が修得されました。



●講師
西野泰代さん

PROFILE

【にしのやすよ】
広島修道大学人文学部
教授



青少年育成カレッジ講師の寄稿①

ネット社会に生きる子どもたち
～親や教師が知っておきたいこと～

1 はじめに

スマートフォンが急速に普及する中、若者たちが電車やバスの中で、あるいは歩きながらまでも、絶えずスマートフォンを操作する姿を皆さんはしばしば目にされるのではないのでしょうか。今回の講演では、日々の生活においてスマートフォンを片時も手放せない若者たちの心理に迫りながら、ネット社会を生きる青少年の健全な育成について考えたいと思います。

2 スマートフォンを
手放せない若者たち

総務省情報通信政策研究所が高

校生を対象として実施したスマートフォンとの接し方に関する調査（2014）では、スマートフォンユーザの42.6%が「ひまさえあれば、スマートフォンでネットを利用して」と回答し、その目的として最も多く挙げられたのがソーシャルメディアの利用であり、また、ソーシャルメディアを使う理由のうち「友達ちや知り合いとコミュニケーションをとるため」が71.8%と最も高い割合を示しました。さらに、10～20代の男女5000人に「歩きスマホ」についての意識を尋ねた別の調査（リビジェン、2013）では、86.8%が「歩きスマホ」を経験したと回答しており、また、その行為の目的として「SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）」の略語。人と人とのつながりを

促進・サポートするコミュニティ型

のWebサイトのこと（34.3%）「メール（29.5%）」を挙げていることが報告されました。「SNS」「メール」はともにコミュニケーションの手段として使われており、これらの調査結果から、若者たちがコミュニケーションへの欲求を高く持っていることが窺い知れます。若者たちはなぜそれほどまでにコミュニケーションを希求するのでしょうか。

3 現代青年の友人関係

現代の若者たちが築く対人関係を表わす言葉として『ヤマアラシジレンマ』があります。これは、適度な距離感を保つこと、場の空気を読める



ことなどが若者たちの友人関係では特に重要視されている状況を、天敵から身を守るための針毛(トゲ)を持つヤマアラシに準えて表現したものです。

友人関係の発達について、従来の研究では、児童期の中ごろから、同性の仲間たちとの密接な関係を通して役割・規範・責任・約束など様々に社会的な事柄を学び、また、青年期には親友との相互信頼を経験する中で子どもたちは自立の道を探っていくと考えられてきました。ところが最近では、目的によって友人を選択する「選択的友人関係」や、群れて表面的に楽しい関係を維持する「希薄な友人関係」を持つ青年たちの方がそつでない青年たちよりも適応度が高いという研究報告が散見されます。コミュニケーションを希求する若者たちの姿がある一方で、深く関わることを回避しようとする若者たちの傾向、この相反する二つの状況から、ネット社会における対人関係に苦悩する青年たちの葛藤が浮かび上がってきます。



4 コミュニケーションのデジタル化

携帯電話やスマートフォンが普及する以前のコミュニケーションでは、対面式(face to face)が主流であり、言葉のやり取りからだけでなく、相手の表情や声色といった言葉以外の情報を適切に把握することで相手の意図を理解し易くなると考え

られていました。ところが、インターネットの普及により、非対面式(face to tool)のコミュニケーションが台頭してくると、対話の相手は携帯やスマートフォンを介したその先に存在するため、送られてきたメッセージの文字からのみ相手の意図をつましく探らなければならなくなりました。また、一方、相手が目の前にいないことで、コミュニケーションの単純化・短縮化・合理化が図られ、煩わしい人間関係を排除する、あるいは、自分にとって都合の良い人たちだけの狭い範囲でのコミュニケーションに依存するといった状況ができました。このため、最近の子どもたちにはコミュニケーションを通して対人理解と関係構築の経験をする機会が減少し、対人関係スキル、困った事態への対処能力、嫌な事に対する耐性力といった能力が育ちにくくなっていると考えられます。それゆえ、私たちは子どもたちと話す機会を積極的に持ち、また、問題にはいろいろな解決方法があることを子どもたちに伝えていく必要があります。



5 ネット社会に翻弄されないための3つの力

理性や知性の向上を目指して構築されたインターネット社会の中で子どもたちがうまくネットを使いこなすために必要なことは、「スマートユーザー（賢い使用者）」になることです。そのためには、サイトの良し悪しを見分けて仮想社会に騙されない「判断力」、誘惑や勧誘に魅かれず心

にブレーキを掛けられる「自制力」、他者に被害を与えた場合に責任を取ることを自覚できる「責任力」、これら3つの力を備えることが大切だと考えられます。子どもたちがこれら3つの力を身に付けるために私たち大人ができることは、一人ひとりの子どものあるがままをしつかりと受け止め、子どもの自律性を尊重するような関わり方を心がけることです。そつすること、子どもの自尊感情（自分自身を良しとする感覚）が高め

青少年の18.5%が
ネットで何らかの
トラブルに巻き
込まれている!!

子どもの
自律性を
高める



親子で話し合ったうえ
での
ルール作りが重要



6 やらば

インターネット社会の中で子どもたちがネットを有効に利用しその恩にあずかるために、私たち大人は子どもの力を信じ、子どもが適切なスキルを身に付けられるよう積極的に話し合いの場を持ち、根気強く関わっていくことが求められています。

られ、子どもは自らの行動をコントロールすることができるようになります。

青少年育成カレッジ講師の寄稿②

若者のネット・ライン

問題と依存症

1 日本の若者たちが危ない



● 講師
金山健一さん

PROFILE

【かなやまけんいち】

県立広島大学 総合教育センター
准教授 学生相談室長

若者の現状を見てみましょう。引きこもりは164万人（NPO法人引きこもり親の会、2002）、ニート60万人（内閣府、2013）、フリーター182万人（内閣府、2013）、不登校20.3万人（文部科学省、2013）、高校退学者6万人（文部科学省、2013）、加害児童生徒数6万人（文部科学省、2013）、いじめ20万件（文部科学省、2013）、少年犯罪5.6万人（警察庁、2013）と報告されています。合計約466万です。重複している数もありますが、この数字は広島県の人口より多いのです。若者の現状で、①引きこもり②ニート③離職率④自殺の4点からお話しをします。

① NPO法人全国引きこもり親の会
WEB発表 2002年

② NHK福祉ネットワーク 2005年

① 引きこもり…164万人
② 引きこもり世帯…30軒に1軒
③ 引きこもり（稀に外出する程度）
…300万人以上

④ 内閣府 若者の意識に関する調査

（引きこもりに関する実勢調査）報告書

2010年

① 引きこもり数…24万人
② 準引きこもり数…46万人
③ 合計70万人
④ 引きこもり親和群…155万人
⑤ ①～③合計225万人

（1）引きこもりの増加

NPO法人全国引きこもり親の会（2002）では、引きこもりの数は164万人、NHK福祉ネットワーク（2005）では、引きこもりの数は160万人以上、準引きこもり（稀に外出する程度）を含めると300万人以上。内閣府の「若者の意識に関する調査」（2010）では、引きこもり数24万人、準引きこもり46万人、ひきこもり親和群155万人と報告しています。調査方法

によって数字は異なりますが、様々な調査結果を見ると、160万人の引きこもりがいると推測され、13人に1人が引きこもる計算となります。小・中・高等学校は1学級40人です。つまり、1学級に3人ほどが引きこもるのです。実は、引きこもりの若者は、本日のテーマであるネット依存になっっている場合も多々あります。

（2）ニート、離職率の問題

ニートは4つに分類されます。「ヤンキー型」は、享乐的で今が楽しければいいというタイプ。「引きこもり型」は、社会との関係が築けないで、引きこもるタイプ。不登校の延長型ともいえます。「立ちすくみ型」は、就職を前に考え込んでしまい、行き詰まるタイプ。「つまずき型」は、いったんは就職するが早々にやめ、自信を喪失するタイプです。ニートの年代別人数は25歳から34歳のニートの方が、15歳から24歳のニートより、多いのです。つまり、ニートの高齢化の問題が起きているのです。

せっかく就職しても、すぐ仕事を辞めてしまつ若者が急増しています。3年以内の離職率を見てみましょう。中卒後3年以内に離職するのは7割、同様に高卒後3年以内が5割、大卒後3年以内が3割です。7・5・3と呼ば

れています。家庭・学校・地域でたくましくを育てていく必要があります。

(3)自殺の問題と子どもの生死観

平成24年度、人口動態統計の概要(厚生労働省)の調査を見てみましょう。10歳から14歳の死因は、1位は悪性新生物(癌)、2位は不慮の事故、3位は自殺です。しかし、15歳から39歳では自殺が1位です。あまりにも悲しい結果です。

子どもの死生観も変化しています。長崎県教育委員会(2004)では、小4、小6、中2、合計3611人に、子どもの死生観の質問をしました。「死んだ人は生き返ると思いますか」という質問に、「はい」と答えた子どもは15.4%もいました。ゲームでリセットしても、またゲームを開始できます。これも、影響してもいるかもしれません。

2 携帯電話・ネットの問題

若者の問題行動は時代とともに変化していきます。非行・暴走族・暴力行為などの反社会的問題行動。不登校・孤立などの非社会的問題行動。そして、引きこもり・ニート・ネット依存などの脱社会的問題行動と変化してきました。社会心理学の視点では、はず

れ値(少数派)と言われる現象が、10年後には大きな集団になるといいます。例えば虐待。児童虐待相談件数は、ここ20年で60倍に急増しました。以前、虐待ははずれ値であったのですが、今では日常的に起きています。つまり大きな集団になってしまったのです。我々は残念ながら、虐待のニュースを見ても驚かなくなりました。引きこもり、ニート、ネット依存も同様で以前ははずれ値でした。しかし、今は大きな社会問題となっています。

(1)会ったことのない人とメール

携帯電話の実態調査をしました。携帯電話を3時間以上触る中学生は、男子は21.0%、女子は35.3%です。携帯電話は、今は、通話ばかりでなく、メール・ゲーム・小説など、様々な機能があります。「会ったことのない人とメールをしたことがありますか」という調査をしました。中学では女子の52%、男子の32%が、会ったことのない人とメールをしています。このメールから、性非行に巻き込まれる子どもたちもいます。中学校からの情報モラル教育では遅いのです。

(2)携帯電話とストレス・ライフスタイルの関係

携帯電話の所持と、ストレスやライフスタイルの調査の一部を紹介します。

(例)「0時以降に寝る」と答えた割合。

小学生 持っていない8.5%、ガラケー15.6%、スマートフォン18.4%

中学生 持っていない36.5%、ガラケー51.6%、スマートフォン58.7%

「0時より遅く寝る」は、小学生、中学生ともに、「持っていない」↓「ガラケー」↓「スマホ」と数値が増加しています。「イライラする」「勉強に自信がない」の調査でも同様の結果でした。スマホは、「コンピュータと機能は変わりません」「コンピュータを常に持参している」と同じ状況が、このような結果に繋がっていると思います。

(3)大人が知らない携帯電話の事例

中学校1年生A子に、昼休みに、30人ほどから、「斉に」「死ね」「キモイ」「うざい」「学校来るな」等のメールが来ました。この中学校は、携帯電話は禁止です。A子はそれが原因で不登校になりました。原因は何でしょうか？

答えは、「成りすましメール」です。A子は、合唱コンクールのピアノの伴奏者に選ばれました。B子はそれに嫉妬し、ヤフーメールやGメールのフリーメールを利用して、30人分のアドレスを作りました。そしてこのアドレスには「死ね」「別のアドレスには「キモイ」と書き込み、一斉に配信をしたのです。A子はB子を親友だと思っていました。携帯電話

では様々な問題が発生しているのです。

(4)リクエスト写メール

こんなメールがあります。「女性17歳〇〇県、助けて下さい。お金なくて困っています。お財布の中0円…。取り置き写メ買ってくれる人いませんか? 5枚からく値段は購入者さまが決めてください。ネット銀行がある方は、是非いますぐ助けて」このメールの意味はわかりますか。自分の裸の写真をネットで売っているのです。そして写真代の振込先も送ってきます。しかし、最近ではEdy決済が多くて、親も気づくことができません。援助交際は危険があるために、リクエスト写メールをする女子中高生が増えています。彼女たちは家庭や学校に居場所がないことが多いのです。

(5)出会い系サイトの罠

出会い系の加害者は、①簡単にいいね②最初は徹底的に聞き役 ③相談に乗ってあげたらイチコロと言います。出会い系被害者は、①優しかった ②悩みを聞いてくれた ③相談にのってくれた ④被害と聞いていない(恋愛感情) ④危険なと気づいていなかったと言います。本当は、親、先生に聞いてほしいのです。

(6) 広島少年による死体遺棄事件

今、LINEが問題となっています。LINE自体が問題ではなく使い方が問題なのです。広島では少年による、死体遺棄事件が発生しました。彼らはLINEの仲間です。その実際のLINEのやり取りは次の通りです。

「○○ゆづり、いま行方不明でさがされている」「少女16歳とみられる人物」、「なんで殺したん?」「少女の友人」、「グループチャットでいいいになって、…殴って蹴ってやら根性焼きやらしよおたら、あんま動かなくなつて、それで首絞めて最後に首の骨おつてなげすてた」「少女16歳とみられる人物」。これが現実です。グループチャットのことです。LINEで言い合いになって相手を殺してしまったのです。では、我々、大人は何をすべきなのでしょう。

3 ネットへの書き込み

ネットへの不適切な書き込みが急増しています。家庭・学校・地域で、そのような行為には責任が伴つて教えるなくてはなりません。しかし、ネットに一度出た情報は拡散を続け、一生取り返しのつかない危険があるのです。※次の4つの書き込みは、講演では実物をお見せしています。

(1) 〇〇市立××中学校 男女8組が

卒業式で集団キス画像をアップ

【拡散希望】となり、炎上の元になった中学生集団キス画像があります。これはもうネット上から消すことができません。

(2) コンビニのアイス用冷蔵庫

コンビニのアイススクリーム用冷蔵庫に店員が寝そべった映像がネットに流れました。その後、その店と店員はどうなったのでしょうか。2013年6月店員がfacebookに、アイススクリーム用冷蔵庫に寝そべった映像を投稿。2013年7月14日、ネットで大炎上し店名特定。2013年7月15日同コンビニ運営会社がネットに謝罪文、△△県〇〇店とのFC契約解約、当該従業員を解雇、当分の間休業7/15・17時〜となりました。この店員は、どのように責任を取るのでしょうか。

(3) 大学生がツイッターでサッカー選手、

芸能人のデートをツイート

東京のホテルにバイトしていた大学生が、「サッカー選手と芸能人が『来店』」とツイートをしました。

すると、これは「誰がツイートしたんだ」と、ネット上で探し始めました。すぐに学部が判

明。27分後に出身高校判明。33分後に名字判明。35分後に大学判明。37分後に名前判明。77分後に最終的には卒業アルバムが、ネットに掲載され大炎上。本人が判明するまで77分。

彼女の将来は、どうなるのでしょうか。バイト先は解雇になりました。拡散されたネットには今まだに彼女の情報であふれています。この状況では就職もできない可能性があります。彼女は名門大学の出身です。彼女は大きな犠牲を払ってしまいました。

(4) 病院に勤める看護師のブログの炎上

「胃 グロ注意 病院の患者さんの大腸もあるよと、本物の胃や、大腸を、ネットに掲載。ブログは、大炎上しました。当然、この看護師は解雇になりました。

4 我々、大人は何をすべきか

携帯電話所持急増期は小学校4年生です。学童保育がなくなり、塾に行く子どもたちが増えます。被害が急増する中学生から、ネットに対する予防教育をするのは遅いのです。

(1) 学校では、当事者性を育てる

大切なのは携帯電話・ネット問題に対し

ての当事者性です。児童会・生徒会を活かし学校全体で議論する必要があります。①自分たち自身で問題を見つける。②自分たち自身で対策を考える。③自分たち自身で実際に行動することです。

(2) 家庭では、ルールづくり

大人は携帯電話の問題はよくわからないと言いますが、大切なのは家庭でのルールづくりです。①フィルタリングをはずさない。フィルタリングには、ホワイト方式、ブラック方式がありますが、小学生ならホワイト方式がいいです。②3分ルールは使わない。女子中、高校生は、3分以内に返信がないと、友達ではないという暗黙のルールがあります。そのため、お風呂でも携帯電話を持っています。③食事中・勉強中は、電源を切る。④寝る時も電源を切る。⑤困った時は相談する。⑥ルールが守れない時は使用禁止。以上のルールを、家庭で子どもたちと相談して決めることが大切です。

ネットや携帯電話に依存しない若者は、現実のコミュニケーションにより育成できると考えています。家庭・学校・地域で、もう一度、携帯電話、ネットについて当事者性を持つことが肝要です。

毎月17日

青少年の日

毎月第3日曜日

家庭の日

11月1日～11月30日

子ども・若者育成支援強調月間

青少年育成広島県民会議とは…

青少年育成県民運動の推進母体として、昭和41年の設立以来、次代を担う青少年の健全な育成を図ることを目的にさまざまな事業を行ってきました。

昨今の複雑多様化した青少年をめぐる問題に、国、県、市町の行政や青少年団体など関係機関と連携し、県民総ぐるみの育成運動として取り組んでいます。あいさつ・声かけ運動、少年の主張、夢配達人プロジェクト事業、青少年育成カレッジなど幅広い内容です。平成20年の法改正に伴う申請手続きを済ませ、平成23年度に公益社団法人に移行しました。

〈概 要〉

設 立 昭和41年12月7日

法人格取得 平成2年10月21日

認 定 日 平成23年3月22日

育 成 基 金 5億円(平成3年度設立)

会 長 上田宗岡(茶道上田宗箇流家元)

(公社) 青少年育成広島県民会議

〒730-8511 広島市中区基町10-52

広島県環境県民局県民活動課内

TEL 082-513-2742

FAX 082-511-2173

<http://www.hiro-payd.or.jp>

会員加入のお願い

私たちがそうであったように子どもたちはやがて大人になっていきます。青少年が夢を持ち、健やかに成長し、自分が育った地域を愛し、社会を構成していくことは私たち全ての願いです。そのための活動を県民運動として取り組んでいます。

県民の皆様方に会員になっていただき、この活動へのご支援をお願いしております。活動の内容は、『はぐくむ』の中をご覧ください。

■賛助会員

会費／個人 年額1口 1,000円

団体 年額1口 10,000円

■正会員

会費／個人 年額1口 3,000円

団体 年額1口 5,000円

- 何口でも結構です。
- 機関紙「せとのあさ」、情報誌「はぐくむ」をお送りします。
- 会費の納入方法などは、事務局までお問い合わせください。

銀行
振込先

広島銀行県庁支店

口座番号／(普通) 233251

口座名義／(公社) 青少年育成広島県民会議



広島県の青少年のマスコット

ゆっぴー

「ゆっぴー」は、府中町の小学生が太陽とライオンをモデルに、“元気に明るく育つ青少年”をイメージしてデザインしました。

はぐくむ vol.8 発行月 平成27年2月

発行／(公社)青少年育成広島県民会議

〒730-8511 広島市中区基町10-52

広島県環境県民局県民活動課内

TEL082-513-2742

